

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:54.

パークベンチ位における皮膚損傷の発生要因の検討

加藤 未優, 佐藤 美幸

「パークベンチ位における皮膚損傷の発生要因の検討」

手術部ナースステーション ○加藤未優 佐藤美幸

【研究の背景】A病院では、2014年からの4年間でパークベンチ位手術は71件あり、そのうち3件で側胸部にNPUAP分類 I 以上の褥瘡、11件で側胸部や大転子部に発赤が発生した。吉村らはパークベンチ位の褥瘡発生因子に関して、6時間以上の手術時間と発汗ありで褥瘡発生率が優位に上昇すると述べている。しかし、A病院では手術時間が6時間未満や高体温ではない事例も存在する。そのため、褥瘡が発生した事例を分析し発生要因を検討することで、パークベンチ位における褥瘡対策や看護を検討した。

【目的】A病院の褥瘡発生要因を特定し、褥瘡発生率の減少につなげる。

【方法】対象は2014年4月から2018年3月に脳神経外科手術でパークベンチ位をとった患者71名。調査項目は、年齢、性別、BMI、出血量、輸血量、収縮期・拡張期血圧、手術時間、手術終了時中枢温・末梢温・体温の差、麻痺の有無、既往歴(高血圧・糖尿病・心疾患・喘息・リウマチ)、喫煙歴、アレルギーの有無、血液検査データ(TP、Alb)とし、術中の看護記録と入院時のデータベースから収集した。

【分析方法】1.①褥瘡あり群3例と褥瘡なし群68例に分類。②褥瘡・消退する発赤あり群14例と褥瘡なし群58例に分類し、検定した。2.NPUAP分類 I 以上の褥瘡が発生した3例は、1事例ごとの褥瘡の発生要因を検討した。

【倫理的配慮】研究者の所属する施設の倫理審査委員会の承認を得た。

【結果】1.①②ともに、すべての項目において有意差がなかった。2.事例1の褥瘡発生要因は、BMI高値と長時間手術であった。事例2の褥瘡発生要因は、BMI高値と長時間手術と発汗ありであった。事例3は、褥瘡発生因子となり得る患者背景や手術状況はなかった。

【考察】1.の結果から、パークベンチ位の褥瘡発生因子となり得る決定的な項目はなかった。しかし、3事例の検討からBMI高値と長時間手術、発汗ありは褥瘡発生に影響する可能性があると考えられる。研究結果を踏まえ、さらに褥瘡発生率を減少させるには、現在実施している看護に加え、BMI高値の患者に対する看護や、長時間手術になった際の看護について検討していくことが課題である。

【結論】A病院におけるパークベンチ位手術の褥瘡発生要因は、特定することが出来なかった。しかし、患者背景や手術状況、看護師が実施する看護行為が重なることで褥瘡発生に至る可能性があると考えられる。